

博士課程教育リーディングプログラム（オールラウンド型）

# PhD プロフェッショナル登龍門

フロンティア・アジアの地平に立つリーダーの養成

正規履修生・準履修生募集



名古屋大学 PhD 登龍門推進室

東山キャンパス 理学部 C 館 3F 319 号室

〒464-8601 名古屋市千種区不老町

TEL : 052-789-3595/3827

e-mail : 10ryumon02@adm.nagoya-u.ac.jp

<http://www.phdpro.leading.nagoya-u.ac.jp/>

窓口開設時間: 8 時 30 分～17 時 15 分(月～金)

日本が新たな成長戦略を実現していくためには、東海地域の誇るものづくりの復活が不可欠です。そのためには、経済成長著しいフロンティア・アジア諸国との連携が欠かせません。

名古屋大学では、製造業の国際的なビジネス展開と国際連携を支えることのできる人材を、文系・理系の枠を超えて養成するためのプログラムを実施しています。

#### 博士課程教育リーディングプログラム（通称・リーディング大学院）

「博士課程教育リーディングプログラム」は、優秀な学生を俯瞰力と独創力を備え広く産学官にわたりグローバルに活躍するリーダーへと導くため、国内外の第一級の教員・学生を結集し、産・学・官の参画を得つつ、専門分野の枠を超えて博士課程前期・後期一貫した世界に通用する質の保証された学位プログラムを構築・展開する大学院教育の抜本的改革を支援し、最高学府に相応しい大学院の形成を推進することを目的とした、文部科学省・日本学術振興会の事業です。

採択されたプログラムには、(1) 国内外の優秀な学生が専門分野の枠を超えて切磋琢磨しながら、主体的・独創的に研究を実践するとともに、国内外の多様なセクターからの第一級の教員が密接に研究指導を行う魅力ある環境を提供するものであること、(2) 優秀な学生を広く産学官にわたり活躍するリーダーへと導くため、解決すべき課題に基づき、産・学・官が企画段階から参画した国際性・実践性を備えた研究訓練を実施するものであることなどが求められています。

本プログラムは、このうち「国内外の政財官学界で活躍しグローバル社会を牽引するトップリーダーを養成するため、大学の叡智を結集した、人文・社会科学、生命科学、理学・工学の専門分野を統合した学位プログラム」である「オールラウンド型」として採択されたものです。

現在の日本は、バブル経済の崩壊、阪神淡路・東日本と二度にわたる大震災を経て、人類がいまだかつて体験したことのない超高齢社会へと突入していく状況にあります。その日本が再びかつての活力を取り戻すためには、フロンティア・アジアとの共生を通じた製造業の再生という次世代の成長戦略を描き、実現することのできるグローバル・リーダーの存在が不可欠だと考えます。

終身雇用制が崩れ、旧来の大企業も安泰でなくなった日本が新たな成長を実現するには、真の実力を身につけた人材が新しい業種へと移動し、積極的に起業していくことによる産業構造の転換が必要になるでしょう。そのためには、最先端の科学技術やものづくりなどのハードな側面、知的財産権保護・マーケティングなどソフトな側面の双方において教育を進めることが必要となっています。

また、フロンティア・アジアとの連携は、それらの諸国が人権保障と民主政治の実現を促進しつつ持続可能な経済発展を遂げることによって、はじめて可能となるでしょう。それを支援していくことはアジア唯一の先進国・日本の国際的責務でもあります。従ってこれからの教育プログラムは、優秀な日本人を育てるだけでなく、積極的に留学生を受け入れることによって各国の成長を担う優れたリーダーを供給する必要があるでしょう。

本プログラムは、高い専門性とそれを社会において活用する能力を兼ね備えた人材を、日本人・留学生がともに学ぶ環境を通じて養成することを目的としています。

## 養成すべき人材像

これまでの博士課程教育は、学術分野で活躍するプロフェッサーの養成を主な目的としてきました。本プログラムではこれと異なり、博士号を持ちながら社会の各分野においてリーダーとして実践的に活躍する職業人＝「PhD プロフェッショナル」を養成します。

PhD プロフェッショナルとは、健全な批判精神を持つとともに高い見識に立って社会に対する責任を果たすことのできる人材、名古屋大学学術憲章にうたっている「勇氣ある知識人」にほかなりません。

### (1) コア・スポーク能力

名古屋大学の持つ高い研究力に支えられた高度な専門性をコアとして獲得する一方、それを活用して異分野・異文化の人材とともに国際的に活躍する能力や、コミュニケーション能力・マネジメント能力・自律的問題解決能力などを、付随するスポークとして身に付ける必要があります。

本プログラムでは、これらスポーク能力の養成を通じて、企業（起業も含む）・官公庁・マスコミ・政治・司法・国際機関・NPO・中等教育など、さまざまな分野においてリーダーとして活躍できる人材を養成します。

### (2) フロンティア・アジアのリーダー

日本の経済的・文化的成長を維持する一方、世界から期待される指導的役割を果たすためには、中国・韓国などの近隣アジアを超えた領域と連携していく必要があります。本プログラムでは今後の高い成長が期待されるそれらの諸国を、「フロンティア・アジア」と呼ぶことにしました。具体的には以下のような地域が含まれます。

- ✓ インドネシア・カンボジアなど東南アジア
- ✓ インドなど南アジア
- ✓ キルギスなど中央アジア
- ✓ モンゴルなど北アジア

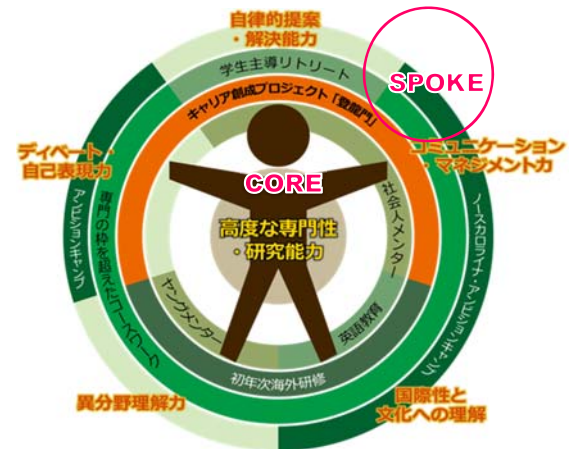
本プログラムでは、名古屋大学が培ってきたアジア諸国との強い連携に基づいて、この領域で活躍する日本人・留学生の双方を養成します。

## プログラムのこれまでの取り組み

「PhD プロフェッショナル登龍門」は、大学院入学から博士号取得までを対象とした、5年一貫の教育プログラムとして行われています。通常の大学院教育に並行して追加的な能力養成を図るものであり、所属する各研究科において研究者として認められるための十分な教育を受けることが前提となっている点に注意してください。

## コア・スポーク方式

本プログラムでは、大学院の生み出す人材として身に付けるべき高度な専門性・研究能力を「コア」と位置付け、プログラムとの連携のもと従来同様に各研究科・専攻のカリキュラムに応じた学修を進める一方、国際的・実践的な環境でコア能力を活用する能力を「スポーク」と位置付け、プログラムを通じて養成します。



### コア＝専門性

学生の所属する各研究科における通常の博士課程教育により修得します。博士号取得にふさわしい高度に専門的な知識・研究能力が獲得されているかについての審査は、従来通り、学生の所属する本籍部局・専攻において行います。またその基準についても各部局・専攻の規程によります。

### スポーク＝活用能力

本プログラムの活動を通じて、ディベート・自己表現力を含むコミュニケーション能力、異文化・異分野への理解力・展開力、自文化に対する理解、グローバル社会に関するリテラシー、自律的な問題発見力・解決能力、キャリア形成力などを修得します。

## 教育プログラムの内容

### トップリーダートーク

産官学各界において実際にリーダーとして活躍してきたプログラム担当者の方々と語り合い、意見を交換するための「トップリーダートーク」を設けています。現在の日本社会とそれを取り巻く世界に関する認識、これからの世界を背負う人材に求められる能力などさまざまな題材について、活発な議論が行われています。

### 登壇されたトップリーダーの方々

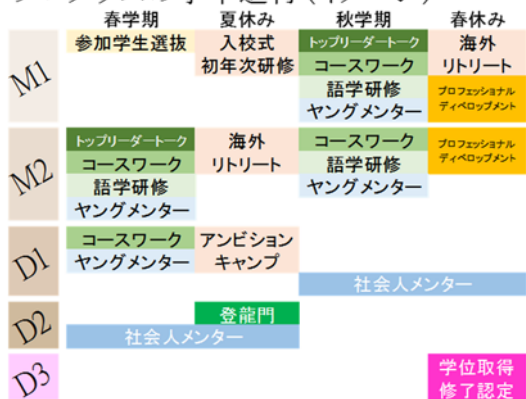
**Academics:** 飯島澄男（高等研究院特別招聘教授）、益川敏英（素粒子宇宙起源研究機構特別教授・名誉機構長）/**Business:** 浅野碩也（東海テレビ放送・相談役）、内山田竹志（トヨタ自動車・会長）、川口文夫（中部電力・顧問）、小出宣昭（中日新聞社・顧問・主筆）、柴田昌治（日本ガイシ・特別顧問）、土屋嶋（大垣共立銀行・頭取）、筒井宣政（東海メディカルプロダクツ・会長）、橋本孝之（日本アイ・ビー・エム・名誉相談役）、富永由加里（日立ソリューションズ・常務）、我妻三佳（日本アイ・ビー・エム・執行役員）、山田貞夫（ダイドー・社長）/**Public Administration:** 大村秀章（愛知県知事）、河村たかし（名古屋市長）、城所卓雄（元モンゴル大使）、房村精一（元名古屋高裁長官）、松永和夫（元経済産業事務次官）、大田弘子（元経済財政政策担当大臣）

### グローバル・リテラシーとコミュニケーション・スキル

製造業を国際的に展開するためには、世界で戦える商品づくりを支えるハード面での高度な技術が必要である以上に、知的財産権保護・マーケティングなどソフト面の知識・能力が必要になります。また、それぞれの分野において十分な専門性を備える一方、異分野・異文化に属する人材と協調して問題解決を進める能力が必要になります。

本プログラムでは、グローバルなビジネス展開について学ぶための講義、文化理解を進めるための体験を含めた講座、企業の人事担当者によるビジネスコミュニケーション指導など多様なコースワークを通じて、グローバル人材に求められる能力の養成を目指しています。

## プログラムの学年進行(イメージ)



※アンビションキャンプは6月、入校式は10月、初年次海外研修は10月～11月の開催となります。

## 国際性の養成

フロンティア・アジアにおける初年次海外研修と2回の海外リトリート(各10日間程度)では、事前または現地で専門家による講義・指導を受け、対象地域の実情について学ぶとともに、各研修テーマに沿った専門分野の枠を超えたフィールドワークを実施しています。また自主研修部分として、テーマについて現地の学生とともに自主的に課題の発見や解決策の提言等を作成する訓練を行い、実践を通じ、独創力と俯瞰力を備えた異文化理解能力、異分野理解能力の獲得を目指しています。さらに、国際性の養成として本国及び異文化体験コースワークも行っています。

## プロフェッショナル・ディベロップメント

個人が持つ高度な専門性を、分野を超えて活用できる汎用性の高いスキルの獲得を目指したプロフェッショナル・ディベロップメントを実施します。本プログラムでは、博士人材育成に先進的な取り組みを行っている英国エディンバラ大学 **Institute for Academic Development** と連携し、プレゼンテーションスキル、創造性、問題解決、チームワーク、コミュニケーション、プロジェクトマネジメントなどに関するワークショップを行っています。

## 英語教育

**British Council** と連携した語学教育を進めていきます。プレゼンテーションやアカデミック・ライティングに関する実践的内容に加え、社会や制度の背景にある文化的要素なども含めた理解が獲得できるようカリキュラムが設定されています。

## ノースカロライナ・アンビションキャンプ

名古屋大学の産学連携推進本部がアメリカ・ノースカロライナ州に設けている拠点 **NU Tech** を活用し、近隣にあるノースカロライナ州立大学と連携して、現地集中講義を実施しています。新産業創造の活発なアメリカにおいて、起業家精神や国際的環境における企業社会のあり方について実践的な教育を受けるとともに、英語活用の集中的な訓練を受けています。

## キャリア創成プロジェクト「登龍門」

多様な人材の協働体制による問題解決能力を身に付けるため、本プログラムでは、初年次海外研修とは別に学生自身が計画・運営する1週間程度のリトリート(合宿)、また社会人メンターの指導による課題解決実践などに取り組んでいます。

また、異分野の若手研究者(ヤングメンター)の指導を受けてさまざまな分野の学修・サーベイに取り組むことを通じ、未知の分野・課題に取り組むための姿勢と方法論を修得します。

これらの総仕上げとなるのが、キャリア創成プロジェクト「登龍門」です。学生からのプロジェクト提案に基づき、自律的な問題発見・課題想定・解決までのプロセスを **on the job** 方式で実践します。チームプロジェクトも含め、海外の大学・研究機関への1ヶ月程度の留学や、企業・官公庁・マスメディアなどにおけるインターンシップを想定しています。

## 達成評価

プログラムの活動への参加状況は、「PhD プロフェッショナル・ポイント」システムにより継続的・一元的に評価します。毎年の成果報告会において、活動状況を総合的に評価し、各学年



3名程度に対して「優秀学生表彰」を総長より授与します。

また博士後期課程修了時には、本プログラムでの活動状況に応じて最優秀・優秀・優良の評価を付した独自のディプロマを授与しています。

### 継続審査

本プログラムを1年半終了した時点（本籍部局の博士前期課程修了時点）において、継続審査を実施しています。本籍部局における修士論文の審査に加え、後期課程においても本プログラムに継続参加することができるかどうかを、「PhD プロフェッショナル・ポイント」システムに基づいて独自に決定しています。また、英語力については、中間評価時点でIELTS6.5以上（または相当成績）の獲得を要件としています。

博士後期課程に進学できなかったもの・継続審査において不可となったものについては、学修奨励金等の支援措置が打ち切りまたは停止になります。

準履修生については、正規履修生に昇格する機会が提供される可能性があります。

## 教育プログラムへの参加

正規履修生および準履修生は、「PhD プロフェッショナル登龍門」の提供する教育プログラムを、すべて無料で受講することができます。

注意：海外や国内の他地域で実施される教育プログラムに参加する場合には旅費等を支給しますが、一部に自己負担が生じる場合があります（旅行保険料など）。また、準履修生に対しては一部のプログラムへの参加が制限される場合があります。

授業期間中においては、平日の夕方以降および土曜日終日に、コースワーク・語学研修などが開講されます。トップリーダートークを含むコースワークが必修であるほか、多くのプログラムに参加することが必要になります。また、夏・春の休暇期間中に海外研修が実施されますが、その多くも必修です。応募にあたっては、参加が時間的に可能であることを、指導教員とも相談の上で確認してください。

学期中のプログラム日程(イメージ)

	9:00	12:00	13:00	18:00	21:00
月曜日	所属研究科の教育				
火曜日	所属研究科の教育				
水曜日	所属研究科の教育				
木曜日	所属研究科の教育				
金曜日	所属研究科の教育				語学研修
土曜日	語学研修		トップリーダートーク		

	9:00	12:00	13:00	18:00	21:00
月曜日	所属研究科の教育				
火曜日	所属研究科の教育				
水曜日	所属研究科の教育				コースワーク
木曜日	所属研究科の教育				語学研修
金曜日	所属研究科の教育				
土曜日				トップリーダートーク	

### 学生支援

## 学修奨励金

将来のリーダーを目指す大学院学生が安心して学業に専念できる環境を整えるため、正規履修生に対しては月額20万円の学修奨励金を支給します。また、準履修生には月額8万5千円を支給します。

注意：本プログラムに参加しても、名古屋大学の授業料・入学金等が自動的に免除されることはありません。各学生は、通常の手続きにより、名古屋大学に対して授業料免除を申請することができます。また、学修奨励金は収入であり、所得税等の課税対象になる可能性があります。

支給期間は、平成30年10月から平成31年3月までの6ヶ月間の計画です。また、博士後期課程への進学にあたっては継続審査を行っています。また、プログラムへの参加状況・学修状況・成績等により支給を停止し、または打ち切ることがあります。

注意：博士課程教育リーディングプログラムが採択されているのが平成30年度までなので、平成31年度以降も学修奨励金を支給することができるかどうかはその時点での予算状況によります。

## 住居の斡旋

本プログラムの参加学生が共同で入居する住居を斡旋します。数人の学生が共同でマンションの一区画を利用する方式で、日常的に生活の場を共有することを通じ、異分野・異文化間コミ

コミュニケーションを日常的に実践できるようにします。利用料は近隣アパートの家賃より低額とします。

宿舎への入居は義務ではありませんが、プログラムの趣旨に沿った活動を日常的に実践する機会として、積極的に検討してください。なお入居可能な人数には限りがあるため、希望者多数の場合には選考を行います。

**注意：博士課程教育リーディングプログラムが採択されているのが平成 30 年度までなので、平成 31 年度以降も住居を提供することができるかどうかはその時点での予算状況によります。**

## 応募方法

第六期参加学生の選抜は、別紙募集要項に従って行われます。関心のある学生は指導教員に相談し、応募の準備を進めてください。学生選抜においては、単に学業成績が優秀であることではなく、異文化・異分野への好奇心や自己主張への意欲など、広く社会において活躍するポテンシャルを有していることを重視します。

## 募集人数

### 正規履修生

日本人学生 6 名、留学生 4 名程度

### 準履修生（一部のプログラムへの参加が制限される可能性があります）

日本人学生・留学生とも若干名

## 選抜対象

名古屋大学大学院の各研究科（法学研究科実務法曹養成専攻を除く）の博士課程（前期課程）に平成 30 年 4 月に入学した日本人学生または留学生、ならびに平成 30 年 10 月に入学することが決まっている留学生。博士課程（後期課程）進学・博士号取得を希望しているもの。修了後には産官学各界において実践的な活動に取り組むことを希望していることが望ましい。各研究科長による推薦を必須とする。

注意：他の奨学金等を支給されている学生であっても、プログラムに参加することを目的として正規履修生・準履修生となることができます。（独）日本学生支援機構の奨学金貸与を受けている学生、外国人留学生で日本政府（文部科学省）奨学金または（独）日本学生支援機構の学習奨励費を受給している学生、母国の奨学金により支援を受けている学生、大学独自の奨学金を受けている学生等は、いずれも奨励金との重複受給はできません。但し、奨励金以外の海外渡航費等の経済的支援を受ける事はできます。詳細については PhD 登龍門推進室に確認してください。

詳細については募集要項を参照してください。

## 学生向け説明会

本プログラムについて、学生を対象とした説明会を以下の通り実施します。

日時：2017 年 4 月 10 日(火) 17:00～

場所：名古屋大学野依記念学術交流館

応募を検討している学生は、できるだけ参加するようにしてください。

## 注意事項

### 奨励金受給中のアルバイト

奨励金の受給者がアルバイトにより収入を得ることは、原則として禁止します。

ただし以下の 1～3 は例外とし、週あたり合計 5 時間、月合計 20 時間を上限として認めます。

1. ティーチング・アシスタント
2. リサーチ・アシスタント
3. その他、大学等高等教育機関において学生を指導・教育するもの（チューターなど）

いずれの場合も、正規履修生・準履修生としての活動に支障のない範囲を守ることが条件となります。また、事前の届け出により必ず PhD 登龍門推進室から了解を得てください。

### 正規履修生・準履修生の公表

奨励金を受給する学生の氏名は、ホームページで公表する必要があります。

公表を拒否する場合は、奨励金を受給することができません。